

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視する。社会の一員として、生涯と通し知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指し、成長の礎を築く。さらに、あたたかな学習集団を育み、学んだことを必要なときに使い、未来を切り拓いていく児童の育成を図る。

【○ゆたかな子 ○かんがえる子 ○つよい子】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にしている学校 ○保護者・地域から「おらが学校」として信頼され共に子供を育成する学校
○児童・生徒像	○新しいことに挑戦し、失敗からも学び、やりきることのできる子供 ○明るくいきいきと自己表現する子供 ○思いやりの心を持ち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供 ○人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供
○教師像	○子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○子供のよさや失敗を認め、励まし、子供の学びにつなげることのできる教師 ○温かな学習集団を創り日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師 ○学校運営やPTA、地域行事に進んで取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- ・令和8年度は、55名の新1年生を迎え、全校児童270人名、12学級（通常の学級10学級、ひまわり学級2学級）でスタートした。
- ・小規模のよさを生かし、1年生からの少人数算数授業の実施、あたたかな学習集団づくりを継続的に取り組んでいる。落ち着いた雰囲気の中で、基礎学力が身につくよう、学びに向かう児童が育成できてきた。学んだことは必要なときに使えることを目指し、授業、教育活動に臨んでいる。思考力、人間性を高めるために、書くこと、ノート指導を大切にするとともに、交流ツール、思考ツールとしてのICT機器タブレットの活用も適時適所で有効活用していく。また、ひまわり学級（特別支援学級）、たんぽぽ（コミュニケーションの教室）の教育活動の充実を図り、様々な取組を共に、インクルーシブな教育活動を学校全体で行っている。

2 前年度の成果と課題

【成果】

「梅二小学習スタンダード」「梅二小生活スタンダード」の学習と生活指導の両輪で、学びに向かう朝のルーティーンを作ってきた。学びに向かう児童、学習規律が整ってきた。また、4月実施の区学力調査を受け、結果の分析を行った。学校全体2教科で通過率が85%を超えた。しかし、正答率には課題があり、個々に見ると長文の読み取り、的確に自分の考えを書く、読み取った文を式に表したり説明したりするなど不十分な領域があった。2月に実施した区の学力調査問題（自学年）の通過率は国語87.7%、算数90.2%と、2教科88.9%であった。

【課題】

- ・学力向上に関して、基礎的な力が次第についてきている。しかし、算数では、計算の決まりの活用、割合等個別に補充する必要がある。さらに、学んだことをもとに考えたり、表現したり、交流の質を向上させたりすることが課題である。（必要なときに付ける力の醸成）
- ・AIドリルの活用等ICTの活用、情報モラルの育成

- ・特別支援教育、不登校（登校渋り）対策
- ・魅力ある学校づくり

【対策】

- ・低学年での学びの基礎を身につけさせる。また、文字を言葉のまとまりとして捉えて書くこと慣れさせる。
（かな文字の読み書き、MIMアセスメントの活用、ノート指導、音読指導）
- ・つまずきの解消（1年生から算数習熟度別指導、放課後補充指導、A Iドリル等の活用、サマースクールの活用）
- ・家庭との連携（月1回の家庭学習奨励期間、自主学習の奨励）

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
1	学力向上アクションプラン（必要なときに使える学力の基礎を身につける）	○	◎	◎	○	○
2	個の尊重とあたたかな人間関係の育成（主体的な学びに向けて）	◎	○	○	○	○
3	体力の向上と健康・安全（学びに向かう礎の確立）	○	○	○	○	○

5 令和8年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（必要なときに使える学力の基礎を身につける）							
A 今年度の成果目標		達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
足立区学力調査の目標とする通過率の向上と正答率の向上を目指す。		区学力調査の目標値通過率が学校全体で85%を目指す。正答率：低学年（85%）高学年（70%）を目指す。	自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業の充実	全学年 国語科 算数科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員 ・足立スタンダード虎の巻に基づき学習者主体の授業づくりに取り組む ・対話や協働による課題解決を図る授業の工夫 ・振り返りの重視（書いてまとめる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・授業改善プランの進捗確認 ・児童の変容の場面 	<ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダード（青）の実施 80%以上 ・協働学習で積極的に話したり意見を出し合ったりできる児童 80%
2 継続	主体的・対話的な学習のできる集団づくり	全学年 道徳科 特別活動	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回 WEBQU を実施 ・学びの中心となる学級のあたたかな学習集団づくり（副担任の活用） ・学年で結果分析・工夫改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の状態の変容（安定度と活性度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・満足群半数以上 ・要支援群の減少
3 継続	ICT 機器・タブレット等の活用	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールとしての活用 ・調べ学習・交流・まとめや発表の場面 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・Padlet 等のソフトの活用増 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット、AIドリル等 ICT 機器の授業活用週 3 回以上 100%
4 継続	読みの基礎の定着	1 学年 国語科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任、学習支援員 ・MIM の活用 ・特殊音節の読みに焦点 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM アセスメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・3rd ステージ 0%
6 継続	基礎・基本の定着	全学年 国語 算数	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップタイム週 3 回、朝 10 分間。読解、漢字、計算、ベーシックドリル、読書 ・放課後学習週 2 回、つまずきがある児童対象、前期は前学年、後期は現学年の補充学習。 ・サマースクール 10 日間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリル、プリント、読書記録等の取組状況 ・学力調査問題の定着度 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 月定着確認テストで目標値通過率 85% 以上 ・目標値通過
7 継続	学校図書館の活用	全学年 国語科 総合	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、図書館支援員を活用し、調べる学習で学校図書館の利用、国語の学習と読書の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習コンクール参加者の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習コンクール参加者の増

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－２		個の尊重とあたたかな人間関係の育成（主体的な学びに向けて）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の心との対話の育成 道徳教育の充実 感謝の気持ちの醸成		・児童のアンケート調査 「自分には良いところがある」80% 「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好な友 達関係」4段階のB以上90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・規範意識、 思いやりの心の育成	・児童のアンケート調査 自己肯定感の項目80% 「良好な友人関係」B以 上90%以上	・アンケート・SSTの活用 ・フェルマータ・タイムの活用 自分の行動や心の振り返り の対話の時間を設ける。 ・特別支援教育個別の手法の 共有、校内委員会（月1回）	自己評価の際に記入		
道徳科の授業の充実	・道徳教育の要として道 徳の授業の改善・充実	・ポートフォリオの活用（全学 年）、ICT機器の活用 ・「思いやり」「生命尊重」の 項目の重点的な扱い			
「言葉は心」 挨拶・あたたかな言葉 遣いと返事の励行	・児童アンケート調査 （7月、12月の2回実施） 「挨拶」「正しい言葉遣 い」B以上90%以上	・生活指導目標、言葉の月目標 について具体的指導の実施 ・あたたかな言葉遣い、文で話 す指導（～です。～ます。を 基本）			

重点的な取組事項－3		体力の向上と健康・安全（学びに向かう礎の確立）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
身ともに健康な児童の育成 運動に取り込む意欲や気持ちをコントロールし最後までやり遂げる児童の育成 児童の安全意識の向上		基本的な生活習慣、授業規律、学習に向かうルーティンができる児童 90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
落ち着いた生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 登校、朝の時間のルーティンづくり 「早寝」80%以上「早起き」90%以上「朝ご飯」98%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣、授業規律、名札の着用、手洗い・うがい等の指導を通し学習に向かうルーティンをつくる。 フェルマータ・タイムの活用 学習に向けた午後の落ち着いた生活習慣づくり 	自己評価の際に記入		
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の実践、外遊びの励行 姿勢・体幹・学習体力を意識した取組 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きをつくる運動を年間計画に組み込む。 業間の活用（児童教員と共に活動・場の工夫） 姿勢の保持 			
健康教育と食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 食育の授業「もりもりウィーク」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導、保健だより等を活用し、家庭との連携・自己評価による早寝・早起き・朝ご飯の習慣化 「給食だより（月1回）」「郷土食」「もりもり給食ウィーク（年3回）」等食育の推進 			
安全・防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境の変化・想定範囲を拡張した避難訓練の実施（諸機関との連携） 安全指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 諸機関との連携、地震、水害、不審者対応訓練等の実施 水害時マタイムラインの活用 アレルギー対応訓練（年度初め） 自ら危険予測、危険回避能力の育成 			